



Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通じた「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。

この度のコロナウイルス感染拡大と2020年2月25日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを2020年3月17日より連続的に無料開催しています。

カテゴリ：

行政・医療・教育機関向け

開催日時：2020年4月4日

講師：

千葉大学教育学部附属小学校教諭 ICT活用教育 兼 校務ICT化実行委員会 主任 小池翔太氏



千葉大学教育学部附属小学校 教諭。
ICT活用教育 兼 校務ICT化実行委員会 主任。

千葉大学大学院人文社会科学部研究科 公共研究専攻 博士後期課程 在学中。
修士(教育学)。立命館小学校常勤講師 などを経て現職。

2019年度は「生活・総合準専科」という立場で、校内における情報教育の推進を行う。臨時休校にあたっては全校児童に Microsoft Teamsを導入。

子供たち同士がオンラインでつながって学べるように、試行的な実践を重ねる

一斉休校で Teams が結んだ学びのライフライン

日本中で、多くの教育機関が4月初旬から5月の連休まで休校を決めています。ITを活用した遠隔授業への関心が高まる中、たくさんの課題が見えてきました。全ての家庭でインターネット接続ができるわけではなく、パソコンやiPad等の端末所有状況も家庭により格差がある現状は、公平性を重んじる義務教育の現場でIT活用のハードルになっています。千葉大学教育学部附属小学校の取組は、こうした課題を解決するためのお手本のひとつです。

千葉大学教育学部附属小学校は、2月27日(木)に安倍晋三首相から一斉休校の要請があったことを受け、3月2日(月)から休校となりました。それに伴い、6年生は3月19日の卒業式まで、1~5年生は24日の修了式まで2~3週間、自宅学習をしました。その際、グループウェア Teamsを活用したことで、子どもと先生、子ども達同士のコミュニケーションを確保することができたそうです。

その背景には「学校の役割は授業や学習に留まらず、子どもと先生、子ども達同士のコミュニケーションにある」(小池氏)という発想があります。学びにおいて大切な「人間関係というライフライン」を Teams で代替した事例をみてみます。

同校では、休校中の Teams 活用を進めました。具体的には、2月28日(金)午前10時までに全校児童約650名に Teams のアカウントを発行し、同日13時から15分間、テレビで全校向けの授業を行って使い方の説明をしました。休校から1週間経った時点で、8割の児童が Teams にサインインしており、残りの2割も電話で担任の先生がサポートしたところ、サインインできたということです。

グループウェア Teams 活用期間(約2~3週間)

- 2月26日(水): 大学へアカウント発行申請
- 2月27日(木): 首相一斉休校要請
- 2月28日(金): 10時発行完了・文書印刷
13時~全校授業(15分間)

- 3月2日(月): 休校ウェブ課題・Teams開始
- 3月19日(木): 卒業式 ※前日3/18に「Teams卒業式」
- 3月24日(火): 修了式 ※3/23に「Teams修了式」



Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

実は同校では Teams を補助として活用し、全員強制にはしませんでした。最初から完璧を目指さず、できる範囲で始めたことで、短期間の導入が可能となり、多くの子どもと先生が実際にオンライン教育のメリットや楽しさを実感することになったのです。

休校期間中の自宅学習において、柱になったのは同校の先生が、学校のウェブサイトに掲載したオリジナルの課題でした。大学の教育学部附属校である同校は、研究校であるため、もともと新しい取り組みや発信に慣れていました。それが緊急時に生きたのです。

各家庭では学校ウェブサイトに掲載された課題をパソコンやスマートフォンに表示したり、印刷したりして、子ども達が学習に取り組みました。その後、子ども達は学んだプリントの写真を撮影して Teams で画像を共有したり、学んだ内容に対する感想を書きこんだりしたそうです。学年により取り組みやすい方法で続けることで、オンライン上に子ども同士、先生の新しいコミュニケーションが生まれました。

「低学年はプリントを持って撮影した写真を画像共有し、中学年からは、ちびっこ Youtuber のように自分で撮影した動画を共有することが多かったようです。4 年生頃からテキストメッセージのやり取りがぐっと増えました。高学年は料理の手伝いをした様子を画像共有したり、ピアノを弾いた動画を共有したりすることもありました」（小池氏）

さらに、先生が上から教え込むのではなく、ファシリテーターのような役割を果たし、失敗から学びながら子ども達のアイデアを引き出したことも、新しい形の学びにつながりました。

「朝の会を Teams で実施したところ、皆で歌を歌うとカオスになってしまうことが分かりました。失敗経験をもとに子ども達がマイクのミュート機能の使い方を発見して活用するようになったのです。6 年生は卒業式の様子を録画して他の学年に見せるか、ライブ配信するのが良いかといった議論もしました」（小池氏）

子どもの自主性を重んじ、失敗があれば先生と子どもと一緒に解決策を考える姿勢が、オンラインツールを生かす学びにつながると言えそうです。さらに、自宅での食事を写真撮影して Teams でシェアして楽しんだり、オンラインで通話しながら「テレランチ」をしないかと提案したりする子ども達もいたそうです。

グループウェアを活用した家庭学習の 패턴の例

- 1 朝起きて、朝食をどる
- 2 今日のウェブ課題を確認する
- 3 登校する(電車に乗る)
- 4 昨日のウェブ課題の答えを確認する
- 5 オンライン朝の会をする(自主研修)
- 6 課題投稿・コメント送受信・ウェブ勉強会(自主研修)
- 7 自由投稿・雑談・チャット
- 8 昼食を準備して食べる(自主研修・テレランチ)
- 9 下校する(電車に乗る)
- 10 帰宅をする

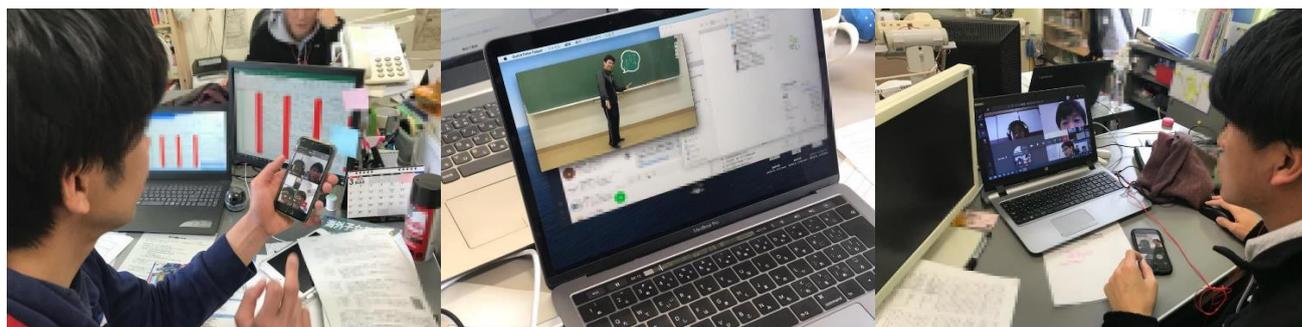


また、小池氏は同校について「ICT 化がすごく進んでいたわけではありません」と話し、数年前から「細々と導入してきた」ことを紹介しました。まず、2016 年 3 月に iPad45 台と学年に 1 つのアクセスポイントが導入され、続いて 2018 年 7 月に Windows10 の入ったパソコンが 45 台、2019 年 7 月には追加で iPad35 台、各教室に天吊プロジェクターが設置されるようになりました。

機器やインフラが豊富とは言えない状況で、2019 年度からは、2 年生以上に週 1 回、パソコンを使った授業が始まり、先生は出張レポート作成について試験的に Teams を導入していました。また、保護者に配布するプリントには QR コードがつけられ、ウェブにも掲載されていたそうです。このように、最初から完璧を目指すのではなく、できることから取り入れていく姿勢が、Teams に限らず、他のオンラインツールを学校現場に導入するために役立つと言えそうです。

小池氏の報告から、Teams を活用した子どもたちの自宅学習には、将来、社会に出た時の仕事環境がそのまま再現されていると言えます。今まさにテレワークに挑戦している保護者と一緒に肩を並べて、遠隔授業に取り組むことは子ども達にとって未来への準備になる、と言えます。

ここで大切なのは「全教員の前向きな協力と、保護者の理解と支援」（小池氏）が大きかった、ということです。10 年、20 年後に社会に出る子ども達が「生活の中に学習がある時代」（小池氏）に馴染んでいくため、学校関係者、保護者が協力してそれを支援していきたいものです。



※千葉大学教育学部附属小学校 Facebook ページより写真転載